40「教育」の未来?!厳しいが、「思いある人達」がいる限り、それは創られていく?!

堂本　彰夫

(1)「教育」は、未来（理想？）を創るためにある！けれども、現在、それを担う人達が途方に暮れている?!

いよいよ、この「新・教育協働への道」も、第 40 号を迎えた！以前の「教育協働への道」と併せると、都合 140 号となる！本当に、よく書いてきたものである！ただし、その執筆間隔（否、意欲と言った方が正確である？）は、特に、この「新・教育協働への道」にあっては、ある種の気まぐれもあって（と言うより、悲嘆？否、書くことの無力感？）、一定ではない！しかも、テーマも、その時々の話題に沿ったものとはいえ、その連続性（ストーリー性→体系性）には、かなりの疑問符がある！それはそれで仕方がないのであるが、そこで今号では、折角の機会（一つの節目）でもあるので、思い切って、「『教育』の未来?!」と題して、これまで述べてきたを織り込みながら、そのあり様を、改めて語ってみたいと思う！

ただし、これは、単なる思い付きからではない！やはり、そのことが現在、是非とも必要だと考えるからである！要は、昨今の厳しい問題・課題状況の出現、そして、それらに付随した様々な言論、そして各地の実践事例を見ての（もちろん、その直接的な情報は、ほんの一部しか持ち合わせてはいないが！）、私なりの着想（夢物語？ロマン？）が、新たに頭を擡げてきているということである！だから今、それをまとめておきたいのである！しかも、急がなければいけないのでもある！何故なら、それを担う人達（学校教育だけでなく、社会教育関係者も！）が、現在、途方に暮れて（疲れ果てて？）いるように思えるからである！だとすれば、少しでも彼らの力にならなければ、ここで書いている意味も、ほとんど雲散霧消する?!そう、思うのである！

しかるに、これには、私自身の切なる思いが加わっている！それは、別途「『岳陽』と共に」（第 53 号）で紹介したことであるが、一つは、最も安定した教師生活を送っている（自信をもって臨んでいる？）と思っていた教え子（N君）の話と、ＮＨＫ番組（「新プロジェクトＸ：福井県小浜市の水産高校→現在は若狭高校海洋科学科に統合の事例」）で知らされた、一人の赴任教師の奮闘ぶり？（結果的に、私の言う「教育協働」のプロセスと成果を顕現させている！）が、半ば交錯した形で、受け止められたからである！最近は、教師の、休職はともかく（相変わらず多い！）、離職者さえもが増えていることは知っていたが（特に若い人達！）、まさか彼が、その一人になっているなんて想像もしていなかったが、聞けば、自分の仕事にやりがいが感じられない！「こんなことを、何でしているのだ？」そんな風に思う気持ちが日に日に強くなり、最近では、学校に行くこと自体が、何とも億劫にもなっているというのである！

子どもとの関係、同僚との関係も、これ以上は（かなり努力はしてきたらしい？）、改善は厳しいとも言う彼であるが、何故、彼は、こうなってしまったのか？とかくこういう状態は、いわゆる「負の連鎖」を生むものであるが、まさしく今彼は、そういう状態に陥っているわけである?!そして、自分自身を見限ろうともしている？何とも切なく、歯痒い限りなのである！だが、一方で、福井県のような事例もあるのである！端的言えば、そこに、「心ある教師」がいたからこそ、それ（「世界初の『高校生による宇宙食開発』」）が実現したということであるが、今こそ、そうした教師の働きぶり（存在意義）に、社会（直接的にはマスコミ？）は、鋭く？目を向けて（応援→再評価？して）欲しいということでもある！彼らの存在は、ある意味地味ではあるが（とかく生徒の方に賞賛が送られる？）、途轍もなく大きな役割を果たしているのである！

(2) 国家／社会あるいは個々人の飽くなき欲望や暴走？を抑止するために！

もちろん、そうした事例は、他にも多々あると思うし（事態の大小では測れない！）、しかも、地方の高校の、ある種特殊な学校（水産高校）の事例でもあるので（「地元では“最も荒れた学校”と呼ばれ、廃校の危機にあったこの高校。そんな逆境のなか、熱血教師と生徒たちが一丸となって挑んだのは、学校の伝統でもある『サバ缶』を宇宙に届けるという夢のプロジェクト」とあった！）、私が問題としている、普通の地域（生活の基礎圏域）に存在する「公立小中学校」の参考には、直接はならないと言われるかもしれない?!が、実は、そこにある本質は、まったく変わらないと思うのである！つまり、「誰かに善くなってもらいたい！」という思い（願い）をもった、教育に携わる人間がいて、彼らの思いと実行力が、多くの人達を動かし、それによって、学校や地域も変わる！まさに、「ひとづくりとまちづくりの好循環」が生まれてくるということである！

ただし、それは、ある意味、いずれの時代、いずれの地（国）においても、限りなく理想に近いものでもある！我々人間社会は、今（否、これまでも、そしてこれからも！）、言わば、そうした教育の理想に向かって突き進んでいるはずであるが、やおら気がついてみると、その負の側面、ないしはあってはならない国家／社会の危険（危機？）に直面しているとも言えるのである！そして、そこには、あまり認めたくない、国家／社会あるいは個々人の「飽くなき欲望や暴走」が介在しているわけでもある（それが、回り回って、

「教育」の世界にまで、悪影響を及ぼしているわけである？）！近代国家（群）は、幾多の試練（苦難）から素晴らしい思想や制度を生み出したが、国民（公）教育制度も、その一つである！しかし、今やそれも、大いなる危機を迎えているのである（自分達さえよければ、それでよいというような？）？

だが、「このプロジェクトこそが、学校にとっての新たな挑戦であり、再生の第一歩…一過性のものではなく、生徒から生徒へ、15 年という年月をかけて引き継がれた。…延べ 300 人以上の生徒がこの開発に携わる…地域に見放されかけていた学校に希望をもたらし、地域と学校の関係を再構築するきっかけにもなった。単なる宇宙食の開発ではなく、『教育は地域と共にあるべきだ』という強い理念が、現実の形として実を結んだ…熱血教師、生徒、地域の力がひとつになった青春の記録」とある！もちろん、全体としての受け止め方、評価は、まさにその通りなのであるが、そこにあった、心ある人達、とりわけ最初の動きを創り出した担任教師が、困難な状況を、それに呼応した人達（生徒もその内の一人！）との思いの共有のなかで克服していったことを忘れてはならない！まさに、ここが、注目される（賞賛される）ところなのである！

⑶ 改めて、そこに、どういう社会（国家）／生き方像が共有されているか？要は、そこなのである?!

ところで、「美しい国」、「楽しい国」など、時々の首相はそう言ってきているが、そして、「人生 100 年時代」とか、「ウェルビーイング」だとか、様々に言われてもいるが、それ自体は、おそらく間違ったものではなく、そして、望むらくは、そうでありたいという願いであることは言うまでもない！だが、その具体的な姿・形とは？そしてまた、そうした姿・形を実現させるための人々の動き（組織や事業等）、そして他ならぬ財源（予算）はどうするのか？というような反論（ブレーキ？）も、もちろんあるが（これが、ある意味では現実的であるし、それを無視した考えや施策は、単なる画餅と化する！）、しかしながら、さらに突っ込んで言えば、そうした社会（国家）／生き方の未来（理想？）像がなければ、現下の努力や苦悩が何のためにあるのかが分からなくなる？実は、老若問わない「自死」や他者への非難・攻撃が止まない（増えている？）のは、そこに淵源があるのではないか？私は、偉そうにではあるが、そう受け止めている！

しかるに、何も私がここで言うことではないが、古今東西、実に多くの理論家／実践家が、教育のあり方について言及してきたことは他言を俟たない！それは、偏えに、人間や社会のあり方、そこにおける子ども達の未来を考えてのことである！そして、それは、政治や経済といった、人間生活の、言わば外的条件のためではなく、思想や価値観の醸成といった、言わば内的条件（心や精神）のためである！かつて、E.カントは、『永遠の平和のために』を書き、「平和を実現するには『世界共和国』しかない…たとえそれが夢想(Imagine)に過ぎないとしても」と述べていたようであるが、それを実現させるのは、やはり「教育」の力である！

だが、その教育の力とは、当然であるが、思いのある人達が担っているのである！とは言え、その人達が、現在、疲弊しているのである！であれば、当然のことながら、その原因（表層的なものではなく、本質的な原因！）を抉り出し、その根本的な解決策を、しかも、困難を極めている現場の人達任せにするのではなく、言うなれば、社会全体で、その解決策（未来？）を見出していくべきなのである！しかも、そのモデルや示唆（「教育協働」の形）は、ある意味では、至るところにあるのである！だが、それらが、うまく伝わっていない！否、それらが、うまく繋がっていない！そこが、ある意味問題なのである！では、どうすればよいか？まさに、そこが、問われるのである！

忙しい！目先の仕事をこなすだけで精一杯！やってもやっても、成果が見えてこない！喜びもない！最早、限界である！やりがいがなくなった！仕事を変えたい！様々な表現（位相？）で語られるその苦悩を、どうやって克服していけばよいのか？多忙、やりがいのなさを、どのように払拭すればよいのか？一つは、そのやり方である！教師と生徒、そして地域の人達が、一緒にスクラムを組んで動いているではないか（私に言わせれば、それこそが、「教育協働」の真の姿・形なのであるが！）！そこに、やはりＩＣＴの活用が加わる！しかも、それは、外部との双方向の関係による！だが、もう一つは、これが、教育における肝でもあるが、そこには「人と人との出会いの妙」がある！その出会いによって、人は変わるのであり、その出会いを喜べるのでもある（だが、だからこそ、その逆もあり得る！残念ながら、今は多くが、その方向にシフトしている？）！

いずれにしても、結局は、それによってしか、究極の解決は得られないのである！だから、諦めてはいけないのである！決して、終わらせてはいけないのである！教育、あるいは学校への期待と信頼をなくせば、その社会（国）は危うい？しかし、それは、あらかじめ用意されているわけではない（ましてや外部から強制的に与えられるものではない！その過誤は、これまで嫌というほど見せつけられてきたし、今でも、その過誤を続けているところもある？）！それは、始終繰り広げられる「他者との出会い」、そして、それに「意味をもたせようとする」者の思いと苦悩から生まれるものなのである！だから、それを、社会（国）は、温かく見守らなければいけない！それが、彼らのやりがい・喜びを実現させるのである！「先を生きる→先生」とは、そうした状況にある人に託された呼称なのでもある！めげるな！先生達！そして、他の教育関係者達！（つづく）